

普及活動情勢報告（平成27年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

サヤインゲン現地検討会	10月20日、JA 土佐くろしお須崎管内の栽培ほ場においてサヤインゲン部会の現地検討会が行われ、生産者11名が参加しました。 農業改良普及課は、栽培初期の温度管理からジベレリン処理、厳寒期に向けての加温機の早めの準備等を指導しました。さらに、2種類の天敵昆虫（スワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメ）を有効に活用する実証ほを設置したことを伝えました。 今後は、現地検討会や総会などで実証ほの結果等を情報提供していきます。
ハウスシシトウ現地検討会	11月6日、JA 土佐くろしおシシトウ部会の現地検討会が開催され、生産者15名が参加しました。 農業改良普及課は、光合成の最大化を意識した管理のポイント、PFメーターでのかん水管理、天敵を利用したIPM技術で問題化した害虫対策、土着天敵であるタバコカスミカメやクロヒョウタンカスミカメの有効活用の取組について説明しました。 生産者は、被覆資材の汚れやかん水不足などが、光合成にどう影響があるのかについて理解が深まったようでした。 今後は、収量向上のため、光合成の最大化を意識した栽培管理、また土着天敵の有効利用について関係機関と連携して指導していきます。
キュウリ現地検討会の開催	11月12日、18日、JA 土佐くろしおキュウリ部会の現地検討会が開催され、生産者14名が参加しました。 農業改良普及課は、11月に入って曇雨天が続く徒長気味になっていたため、温度管理と水管理に注意し樹勢を弱らせない管理を指導しました。 生産者は、今後の樹勢の維持と栄養成長と生殖成長のバランスの取り方について理解が深まったようでした。 今後は、収量・品質向上のため、関係機関と連携して3月まで毎月2回、現地検討会を開催していきます。
ニラ部会出荷始め総会	11月22日、JA 土佐くろしおニラ部会の出荷始め総会が開催され、生産者23名が参加しました。 農業改良普及課は、本年度の品種比較や電照栽培の実証内容について説明しました。 参加者は電照栽培に興味を示し、出蕾対策や電照方法の確立を期待しているという声も聞かれました。 今後は、実証ほの途中経過や結果を部会等で報告していきます。

津野山地域で加工用ユズの集荷開始



10月26日、JA 津野山力石茶工場前において、平成27年度加工用ユズの集荷が始まり、初日は約3トンの受入がありました。

序盤は雨天による収穫遅れで集荷量が伸び悩みましたが、11月中旬に入り予測を上回るペースとなりました。

農業改良普及課は、集荷状況調査と併せて果実の肥大状況や品質の調査を行いました。

今後は、次年度以降更なる増量が見込まれることから、JAと連携して集荷場所、受入体制を検討します。

加工用ワサビ実証ほ設置



11月16日、JA 津野山管内で、加工用ワサビの実証ほの設置が始まりました。今年度は梶原町3ヶ所、津野町1ヶ所の合計4ヶ所での実証を計画しています。

農業改良普及課は、実証ほに環境測定機器を設置しハウス内環境を把握するとともに、植付け深度比較、栽培期間の違いによる生育への影響を検討します。

今後は、個別巡回や栽培講習会等で情報提供等を行い、品質、収量の向上に繋がります。

芳生野営農生産組合の将来を考える



11月10日、津野町の芳生野営農生産組合にて、経営改善計画を検討しました。

農業改良普及課は、組合の品目転換の意向を受け、ミョウガの導入について導入経費、収支計画、労働時間の変化について資料を提供し、役員2名、JA 営農指導員と協議しました。

役員は、12月の定例役員会で品目転換を提案することになりました。

今後は、定例役員会に向けた資料作り、役員会での助言を行い、平成29年産からの導入を目指します。

新任普及職員の農家派遣研修



11月12日、中土佐町のサヤインゲン生産者宅において、採用後2年目の普及職員の農家派遣研修がスタートしました。

現場で実際に栽培管理・収穫・出荷調整等の作業を行うことにより、基幹品目であるサヤインゲンの栽培管理技術の習得を目指すとともに、経営管理技術や生産者の産地、農業振興に対する考え方、取り組みを学びます。

2週間と短い期間ですが、これを契機に産地の課題解決に繋がっていきます。